

History of AmerAsian School in Okinawa

1997年11月

5人の母親と「アメリジアンの子どもの教育権を考える会」(以下「考える会」)を結成。

アメリジアンの母親として、行政に学齢期のアメリジアンの就学実態調査、公立インターナショナル・スクールの設立、公的援助等の教育権を要請する。

1998年6月

宜野湾市内の民間教育施設「アメリジアンスクール・イン・オキナワ」(以下「スクール」)を開校させる。県所有の建物一室を借り、無認可のフリースクールとしてスタート。同年8月、宜野湾市大山の民家へ移転。

1998年6月

学籍回復の運動をスタートする。

1999年1月

宜野湾市が市内の児童8人について、学籍回復を回答。

1999年2月

県議会議長に学籍の回復を前提に「スクール」卒業の子どもの義務教育資格認定、公的な援助など6項目を要請する。

1999年3月

当時の有馬朗人文相に「国際児の実質的保障」を要請。

1999年5月

県教育長が「考える会」から受けた公開質問状に回答、条件付きで民間施設でも義務教育を修了できる可能性を示唆する。認可の決定権は地元教育委員会に一任される。

1999年9月

宜野湾市が「スクール」を県内初の民間教育施設と認め、公立校の「出席扱い」とする方針を決定。

同年9月沖縄市、翌年3月浦添市も同様の方針を決定。

2000年3月16日

東門リッキーくんが初めて、沖縄市立美里中学校の卒業認定を受ける。

2000年3月26日

沖縄サミットを控え来沖した故・小渕恵三首相に「スクール」に対する公的支援や、学校として認可されるように教育制度の見直しを要請。

2000年4月

宜野湾市長が内閣の沖縄問題担当室長を訪問し、国と、公的支援の協議を開始。

2000年7月

東京弁護士会が「スクール」に通学する児童が義務教育を無償で受ける権利を侵害されるなど「重大な人権侵害がある」として国や県に改善勧告。

2000年12月2日

公的支援によって校舎が設備されることが確定する。

2001年2月

県と国が支援策を決定。国などの補助で宜野湾市志真志に建設する「市人材育成交流センター」への移転。4月から県による日本語教師派遣が決まる。セイヤー研くんが初めて公立高校の一般入学試験に合格。

2003年4月

宜野湾市志真志の新校舎に移転。

特定非営利活動法人に認定。

2003年6月

創立5周年を迎える。校歌完成。

2006年4月

アメリジアンスクールの生徒が、公立高校の授業に出席していないという理由で、ある公立高校で低い評価をつけられていた問題が発覚。スクールが公立高校に要請し、次年度から善処された。

2007年12月

第1回AASOフェスティバル(学習発表会)開催。

2008年6月

創立10年目を迎える。

2013年

創立15年目を迎える。

タイムス教育賞受賞

博報賞受賞、文部科学大臣奨励賞受賞

2014年

国際交流基金地球市民賞受賞

朝日みらい教育賞受賞

フジテレビ NONFIX 「もう一つの卒業式 ～沖縄 アメリジアンスクール」

2015年12月

Yahoo.co.jp NEWS 「アメリジアンの子どもたち 沖縄で2つのルーツと向き合う」

<http://news.yahoo.co.jp/feature/57>

2016年3月

沖縄県の委託事業「日本語指導教材研究事業」(2014年から2016年)による教材『子どもと指導者のための日本語学習教材 ーにほんごで ぶんすうを まなぼうー』が完成。